【資料１】調査団メンバーと調査日程、訪問先

１．調査団メンバー

団　長	自交総連	緒方　満	福岡地連書記長
事務局	〃	菊池和彦	本部書記次長
	〃	舞弓義隆	東京地連執行委員
	全 労 連	布施恵輔	総合総務局（通訳担当）
	交運共闘	福田昭生	全運輸委員長
	交 運 研	安藤　陽	埼玉大学教授

２．調査日程

３月21日（火）～27日（月）

３．訪問先と対応者

(1) Ｔ＆Ｇ（Transport and General Workers' Union　運輸一般労組）

Ｔ＆Ｇは組合員85万人の多様な産業の労働者を組織している組合で、ロンドンでタクシードライバーを組織している。現職のタクシードライバーの組合員３人も交えて、タクシーシェルター（ドライバー休憩所）の見学や規制緩和反対の闘い、ロンドンでのタクシードライバー免許のあり方について聞いた。

対応者	全国旅客委員会メンバー	マイク･ヘッジス氏
	ロンドンタクシー運転手支部支部長	ルイーズ･オズボーン氏(女性)
	第一地域タクシー部門諮問委員会議長	ジム･ケリー氏
	（以上３人は現職タクシードライバー）	
	運輸部門上席研究員	ロジャー･シアリー氏

(2) Knowledge Point School（ノリッジ・ポイント受験学校）

ノリッジ・ポイント受験学校は、ロンドンに４つあるタクシードライバー免許試験（ノリッジ試験）受験者のための学校の一つで、1983年設立の最も古い学校。受講者は、毎年の全合格者の25％を占めている。タクシードライバー出身の経営者から、免許試験の詳細や受験勉強の仕方、教材の説明を聞き、校内を見学した。

対応者　校長（経営者）　マルコルム・リンスキー氏（元タクシードライバー）

(3) ＰＣＯ（Public Carriage Office, part of Transport for London　公共輸送事務所）

ＰＣＯは、タクシー免許（運転免許・事業免許・車両免許）を管轄する行政機関でロンドン市交通局内の組織。ノリッジ試験はＰＣＯが実施している。プライベート・ハイヤーも管轄している。ノリッジ試験の実際の運用、プライベート・ハイヤー規制、他の交通機関との関係、今後の展望などについて説明を聞き、所内のタクシー車両検査場を見学した。

対応者	所長	ロイ・エリス氏
	輸送サービス部長	サイモン・バギー氏

(4) キース・ヒル下院議員（Rt.Hon. Keith Hill）

ヒル議員は、現在の政権党である労働党の下院議員、官房副長官で、ブレア首相とも近い。元運輸副大臣でロンドン郊外の選挙区選出のため、ロンドンの交通事情に詳しい。調査団の安藤教授の知人であり、政府の運輸政策や規制緩和のあり方などについて聞いた。

(5) ＬＴＤＡ（Licensed Taxi Drivers Association　ライセンス・タクシー・ドライバー協会）

ＬＴＤＡは7000人のタクシー・ドライバーが加入するロンドンで最大のドライバー協会。ミニキャブ追放キャンペーンなどの対外的な活動やドライバーのための福利・厚生事業なども実施している。タクシー事業の実情やノリッジ・テストの詳細、規制緩和についての考え方などを聞いた。日本での規制緩和後の実情についても強い関心が示された。

対応者	議長	ジョン・トーマス氏
	執行委員	バリー・フーパー氏
	（両氏とも現役のタクシードライバーでトーマス氏は専従、フーパー氏は半専従）	